

1981年地元で開催されたソフトボール大会後、初代監督の呼びかけから発足した軟式野球チーム。2010年に創部30周年を迎えた古豪だ。24人の部員は全員黒木西小の児童。「元気に明るく楽しい野球」をモットーに、最後の一球まであきらめないプレーを心がけている。レギュラーを中心に、守備・打撃、紅白戦とさまざまな練習を行っている。卒業生から寄贈された夜間照明設備があり、暗くなっても練習ができる環境にある。夏の甲子園大会に出場したOBから刺激を受け、現在のチームの目標は「全国大会出場」県大会には二度出場しており達成まであとひと頑張りだ。現在、少子化の影響で部員数が減少しておりチームの活性化のためにも新入部員を募集しています。1年生からでも入部できますのでグラウンドに来て体験して下さい。部員一同待っています。

楽しい仲間たち

黒木町 本分クラブ

代表 茅島 文雄



「風景」91cm×61cm

街かど gallery



八女市下柳瀬
鵜木 太
(74歳)

水墨を始めて10年位になります。現在月2回八女市東公民館の水墨画教室に通っています。TVで中国人女性が鮮やかに水墨画を描くのを見て触発されました。自分もあんな風に描いてみたいと何度もビデオを見ました。小さい頃は光友で育ち、辺春川で魚釣りをし、金比羅さんで遊びました。今の住まいは南に矢部川、飛形山、大楠繁る千間土居、その先には宮野公園、遙か東には矢部の山々、北には長峰丘陵があり画材に困ることはありません。私の絵ところは小さい頃から自然豊かな八女で育つうちに身についたものかも知れません。写真の作品は昨年八女総合美術展で八女市議長賞を受けました。八女の祭りカラオケ会で優勝、八女市老人クラブペタンク大会で優勝し三つのトロフィーを頂きました。よき指導者に恵まれ感謝しています。今後色んな趣味を楽しんでいきたいと思っています。

ちょっと怖い 上靴の話

以前から、気になっていた事があります。それは最近の子どもたちの足のことです。

足のちよつとした変形が多くなっています。20年近く靴の仕事をしていますが、最近特に多くなっていると感じます。

色々原因を探していてたどり着いたのが、毎日履いている「上靴」でした。戦後66年たった今でも、ほとんど形が変わらない唯一の履物、それがこの「上靴」です。ご存知のように、上靴と足を固定するのは、甲の部分にある、一本のゴムベルト。子どもたちは毎日上靴で元気に、歩く・飛ぶ・走るを繰り返します。1本のゴムベルトがこれに耐え切れるわけがなく、しばらくするとゴムがユルユルになり、靴の中で足が固定されなくなりま

募集します

西日本新聞の読者を増やすため、西日本新聞エリアセンター(販売店)と協力してセールスプロモーション活動を行っていただきます。

やる気次第で高収入も可能です(出来高払い。50万円以上も可能です)。親切・丁寧な研修もありますので初めての方でも大丈夫です。

社会保険完備なので安心してお仕事ができます。

まずはお電話ください!

(問い合わせ)

西日本新聞エリアグループ筑後
久留米市東合川3-10-1

☎0942-44-9555

子供靴の選び方のポイント

- 靴の中で足の位置をホールドできる?
- かかとをしっかりホールドできる?
- かかとで合わせてつま先の余裕があるか?



詳しいお尋ねは 鶴
邦弘(歩行改善士・公認ウ
ォーキング指導員・公認
MBTトレナー・シュー
ーフィッター) ☎090-5
286-7467まで

八女農茶の収穫と販売実習

八女農業高校

本校北山農場の茶園は、安心・安全の観点から減農薬栽培に取り組み、茶工場で製茶し販売しています。また、本校茶葉を使用した「八農高茶(はつのうこうちゃ)」は商標登録を終り、7月から販売しますのでぜひご賞味下さい。GWには、天神岩田屋本店で開催された「探検!九州フェア」で本校の新茶を販売しました。事前にドリームスFMラジオ番組「スクール探偵団」でPRしていただきました。当日は3年の樋口千晴さんと山下虹子さんが、販売実習を行いました。2人とも、

新茶の試飲を勧めたり、お茶についての説明を一生懸命行い、とても好評でした。お客様からは「おいしいお茶だわ」「応援しているからね」と嬉しい励ましの言葉をいただきました。



6月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

3日(金)、7日(火)、10日(金)、14日(火)、17日(金)、21日(火)、24日(金)、28日(火)

販売時間は、10時30分～15時30分です。

多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

吹き 便利さの 向こうで

現代、インターネットが普及し便利になった。でも、その分何かが置き去りになっている。今や保険もネットで加入できる時代。必要事項を書き込み、相手が居そうに居ない端末画面に向かって申し込む。煩わしいことは聞かれないし、自分の好きな時にできる。しかし、いざ受取りの時……そのトラブルも多いと聞く。とくに保険の知識があるわけでもなく誰に説明してもらったことのないままネットを見て自分の理解力だけで加入しているため、勘違いや認識不足が生じ、当然保険金を受け取れると思っていたのに……受取れないという残念な結果になることがあるという。震災で加入者の安否を訪ね回っている保険外交員のような「人の温もり」はそこにはない。

買い物にしても、今やネットで欲しい物を欲しい時に注文して買うことができる。いちいち店へ出かける時間も煩わしさもなくいい。しかし、いざ商品が送られてくるとトラブルも多いと聞く。写真ではわからなかった手触りや細かな色、サイズ。思っていたのと違う、でも返品も煩わしい……という残念な結果になることがあるという。自分

分の好みを把握してくれる店員のような「接客」はそこにはない。情報ツールをみても、今や紙より携帯小説やネット情報。読んだ後に本や雑誌が溜まっていくわけでもなく、ネットで検索して必要な情報だけ保存しとけばいい。しかし、自分が検索する情報のみを得がち。時には自分が必要としないと思っていた情報も必要だったりするものだ。紙の匂いや感触、年齢問わず手にできる身近さはそこにはない。便利になる一方、わかつておきたい。私達には忘れてはいけないものがあることを。

志穂